
人類の敵の中の人_が女子高生な件について

無機質な生活

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人類の敵の中の人が女子高生な件について

【Nコード】

N3906BA

【作者名】

無機質な生活

【あらすじ】

かつて地上で栄えていた文明の崩壊後、僅かに残された高度な科学技術は原理を忘れ去られ

「魔法」と呼ばれるようになった、中世ヨーロッパ風の文化を基にして再構築された世界。

長きに渡る戦乱も終わりを告げ人々は平和な安定期に入ろうとしていた。

だが、とある遺跡で見たことも聞いたこともない奇怪なモンスター

が現れたとの噂が
広まり始めた時から不穏な空気が流れ始める。

「あなたにお願いがあるわ。私が創ったゲームをプレイしてほしいの。」

一方その頃、退屈な日常を憂鬱に過ごす隠れゲーマーである女子高生、上奏院彩華はクラスメイトの大人しい転入生、二階堂永遠に頼まれ、とある最新型FPSゲームのテストプレイヤーを依頼される。プレイヤーキャラの酷いデザインに少々嫌悪感を示すものの、かつてないリアルな操作感と迫力に魅了されどんだんのめり込んでいく。

そして、彼女による剣と魔法のファンタジー世界の蹂躪が始まるのだった。

機動屍細工

カシャンッ。

カシャンッ。

迷宮のように入り組んだかつてコンクリートと呼ばれた石造りの遺跡の奥深く。

金属音を鳴らしながら、全長3メートルはあろう奇怪な怪物が二本の脚でゆっくりと迫る。

布のような材質で全周を覆った頭部からは一切の表情は窺えず、その右腕は丸ごと黒ずんだ血糊のついた刃物になっている。

そいつの周囲には夥しい数の死体が原型が判らぬ程破損した状態で転がっていた。

「はあ……はあ……。」

対峙する金属の甲冑を着込んだ妙齢の男は溶断破切機構を搭載した両刃剣のトリガーに指を掛けながら息を切らしている。

遣える領主に命じられ遺跡の調査と『ある人物の探索』の為に数人の部下を率いてこの地へ訪れた『騎士』であるこの男はかつて領地に侵入し民の平和を脅かす何匹もの異形のクリーチャーをその剣技で葬ってきた紛れもない英雄の一人である。

その彼がいまだかつてない命の危険に晒されていることを自覚せざるを得ない状況に追い込まれていた。

森へ出向けばその辺に居る小鬼　ゴブリンやオーク程度なら難なく片付けられる程度は腕が立つはずの

部下の兵士がなすすべもなくこの奇形の怪物に皆殺しにされてしま

ったのだ。
帰ったら責任者である自分に相応の処罰が下されるだろうが今はそのような些細な事を気にしている場合ではない。

カシヤツ。

間合いまで近づいた怪物が動きを止め、男の首を切り落とさんと、その刃物がついた右腕を振り上げた。

「……………ずあぁっっ!!」

その隙を逃がさず人間離れした速度で一気に駆け抜け間合いを詰め、十分に熱の溜まった無数の金属管がついた刃をその懐に叩き込む！肉弾戦で対峙している者同士に大きく体格差が場合、小さい方は可能な限り相手に近づいた方が有利になる。リーチの差から生じる一方的な有利が無くなる上、懐から繰り出せる攻撃で有効な技はかなり限定されるからだ。

最もそれを実行するには度胸と経験、そしてに明確に打撃を与えられる攻撃力が必要なのだがこの特殊加工された剣にはそれが十分満たされている。

そうして一撃のもとに男は怪物を斬り伏せられる、筈だった。

「……………何っ!？」

腕が伸びるまで振り切った剣の感触が軽い。

十分すぎるほど肉迫した距離から横なぎに一閃した筈の一撃は怪物の体を覆う布をわずかに斬り裂いただけだった。

男の顔を覆うフルフェイスの隙間から相手を仰ぎ、異変に気付いた。先ほどまで正面を向いていた怪物が、飛び上がり背を向けていたのだ。

(……………これは、まさか!?)

気付いた時は既に遅く、剣を振り切り無防備になった男の体に回転して勢いをつけた怪物の刃が
甲冑をひしゃげながらめり込んでいった。

怪物は剣を振り上げることでこちらを誘い込み、こちらが攻撃を繰り出したと同時に背後に跳躍し、
回避の動作とこちらを倒す攻撃を同時に行ったのだ。

「……………ぐあああああああっつっつ!!!!」

遠心力で威力を増した一撃は甲冑の防御力を凌駕し、一瞬で内臓を潰された男は激しく吐血しながら
壁際へ吹き飛ばされた。

かつて地上に栄えていた文明が滅び、地上に蔓延るクリーチャー共
を押しつけ

人類が再び覇権を握るようになってからまだ間もない。
種類は数あれ、力も早さも体力も硬さも何もかも人間より遙かに強い筈の奴らの

上に立つことが出来たのは、連中の知能が低いからだ。
連携と技術で生物学的な差を埋め人類は勝利してきた。

なら

技術を持っている化け物とは一体どうやって戦えばいい?

(…………答えは簡単…………どうにもならない…………それだけだ…………。)

ガシャン！

鈍い音を立てて男はコンクリートの壁に激突し、血の跡を付けながら崩れ落ちた。

虚ろな瞳はゆっくりと近づいてくる怪物の巨体を映している。

射程距離まで近づいて振り上げられた剣。今度はフェイントじゃないだろう。

自分の運命を悟った男は家族の顔を思い浮かべながら目を閉じようとしたとき、

ふと、何故か怪物が笑っているように感じたのだった。

『ありがとう、なかなかスリリングだったねオジサン！ あー、楽しかったっ』

刃が振り下ろされる直前、最期に聞こえたのは、可愛らしい少女の声だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3906ba/>

人類の敵の中の人^が女子高生な件について

2012年1月10日03時51分発行